

会 議 録

平成 21 年 7 月 9 日調製

審議会等名	平成 21 年度 第 1 回図書館協議会
公開の別	全部公開
開催日時	平成 21 年 6 月 10 日(水) 午後 2 時～午後 4 時
開催場所	三条市立図書館 2 階 視聴覚室
傍聴者の有無	有
出席者氏名	関委員長 宮島副委員長 佐野委員 豊岡委員 渡邊委員 丸橋委員 名島委員 西潟委員 六原委員 説明のための職員 宗村市民部長 金子生涯学習課長 長谷川文化振興係長 指定管理者 太向館長 竹内館長補佐 瀧澤業務責任者 村山副責任者 佐藤副責任者
市民憲章唱和	全員で市民憲章を唱和
協議題	(1) 委員長・副委員長の選出について (2) 平成 20 年度の図書館利用状況について (3) 平成 21 年度の図書館事業計画について (4) 平成 21 年度 4 月以降の利用状況について (5) その他
市民部長	あいさつ
自己紹介	委員、職員、指定管理者の順に自己紹介
館長	三条市図書館協議会運営規則では議長は委員長が務めることになっているが、現時点では委員長・副委員長ともに不在であり、選出までの間事務局で進行する。 委員長・副委員長の選出は「委員の互選により定める」となっている。ご推薦があればお願いしたい。
六原委員	委員長に関氏を、副委員長にボランティアの立場から宮島さんを推薦したい。
全委員	拍手をもって選出
関委員長	就任のあいさつ
宮島副委員長	就任のあいさつ
関委員長	新しい委員の方もおられ、この協議会が新しい気持ちで図書館の運営の助けになればよいと思う。 今月 1 日の「朝日新聞」の記事「図書館に民間参入続々」によると、公立図書館の 6 館に 1 館が民間委託になっている。三条市の場合は 1 年経ち、地元の新聞にも時々出ているように評判が良く、利用者も増えていい方向に進んでいるが、全国的には都会の方がうまくいき、田舎の図書館は予算が少ないため民間が引き受けても利益が上らず、うまくいかない。そうしたいろいろな事情から直営に戻すところもあると出していた。私も市の直営時から関わって、民間委託になるとこの委員会の立場はどうなるのだろうと考えたが、やはり以前とは違う。直営の時には、ここでの意見や質問は直接市に言ったわけだが、今は図書館業務の直接的なことは図書館長に、もっと大き

	<p>な、例えば建物のことについては市に話すというように、2つの方向に分かれている。委員の方々も、自分が疑問に思ったことについて「どこに向けるべき意見なのか」と考えられると伝えやすいと思う。</p> <p>もう一つ委員の方々をお願いしたいのは、昨年2月に下田分館、今年4月に栄分館が開館し、ほかにも嵐南分室・漢学の里分室があるので、ぜひ時間をつくって回ってほしい。一度も見ずに希望ばかり言っても仕方がない。私も先日栄分館に行ってみたが、素晴らしい。こじんまりしているが盛況だったし、できたばかりで本棚はだいぶ空いているが、子どもの本がたくさん入っているので、そういう特色を出した図書館になればいいと思っている。ぜひひと通り回ってみてほしい。</p> <p>では協議題2の「平成20年度の図書館利用状況について」に入る。この会は何でも思ったことを話せる気楽な会にしたいので、「こんなことを言うと悪いかな」などと思わず、どんどん意見を言ってほしい。</p>
館長	資料 No.1 に基づき、平成20年度の図書館利用状況について説明
六原委員	貸出数等が伸びているのはわかるが、レファレンスなども去年との対比があるといい。従来市がやってきた事業をきちんと踏襲するということが1年間やってきたと思うが、「あれもやった」「これもやった」だけではなく、参加人数とか前年との対比などがわかると、新しい委員さんたちも「今後はどういうふうに伸びていくのか」「逆に減っていくのか」といった視点で見ることができる。
文化振興係長	主な数字としては、(8)のレファレンスの合計数字は18年度が503、19年度が469、20年度は今回の資料の通り580。読書会は、18年度は19団体で210回開催、参加者数は2,675人だった。
六原委員	そういう数字が出ていれば、新しく委員になられた方もわかりやすい。
関委員長	全体的に見て、流れは上昇傾向なのか下降傾向にあるのか。
館長	<p>入館者や貸出数は全体に増えているが、子どもの利用が特に本館は頭打ちである。年度末に本を新しくするなどの取り組みはしたが、成果がすぐには出ず、課題。</p> <p>一般の方の利用は、たとえば読書会の場合19年度の19団体が20年度は18団体に減ったが、今年度新しい読書会が2つ立ち上がった。</p> <p>レファレンス件数の増加は、「気軽に質問していただけるようになった」と喜びたいが、簡単な質問のどこまでをレファレンスとしてカウントするか、その都度判断の違いもあるので一概には言えない。我々としては気軽にご質問・ご利用いただくことを第一に目指しているため、この数字が増えていくことは目標のひとつである。</p> <p>全体的なことでは、昨年度は市の事業を引き継ぎ、全員初心者ながら一生懸命やってきた。今年度は2年目になり、職員はひと通り経験できたので、応用動作、プラスアルファを行えるよう取り組んでいきたい。</p>
関委員長	<p>読書会も多く、長年続いている会もあって、メンバーが少ないとか新人が入りづらいという悩みもあるようだが、いろいろな活動がなされているのは素晴らしい。</p> <p>レファレンスも、「答えを教える」のではなく「調べ方を教える」のがよい。そうしないとみんなすぐに答えを聞きたがり、調べる力が弱くなっている。「こういう本に出ています」とか「ここを調べてごらんください」と応える工夫をしてほしい。</p>

	<p>子どもの利用の頭打ちについて気をつける必要があるのは、子どもの数自体が減っていること。統計の数字だけ見て「減った」というのではなく、全体に対するパーセンテージを出せば、見方が変わるかもしれない。100人に対して30人来ていたのが、50人に対し25人になったら、「数は減ったがパーセンテージ的には増えた」と言える。三条はずいぶん子どもが減っているので、そういう視点からも見てほしい。</p>
館長	資料 No.3 に基づき、21 年度事業計画について説明
関委員長	<p>「図書館」というと、あまり利用したことのない人は窓口で本を借りるぐらいしか考えないが、今説明があったように多彩な活動がある。それを少ないスタッフでこなしており、館長は歴史民俗産業資料館も兼ねているので大変だと思う。そのような中でこれから具体的にどのようになっていくのか。重点方針の5番目「三条の記憶プロジェクト」については、2004年に水害があって5年目、五十嵐川の改修もほぼ終わろうとするなかで、投書では「あれをつぶした」「これをつぶした」と出ているが、図書館を中心にそういう記録を残していく運動もやっていきたいということ。これらについて、質問や意見を自由に出していただきたい。</p>
六原委員	<p>いろいろなイベントや講座をこれからもたくさんしてもらえるとということだが、実は職員と話をしている中で、講座等をやった後、反省会は特別していないと聞いた。何人で行っているのかわからないが、例えば講師を呼んで行う場合などは特に、やる前はミーティング、終わった後も反省会が必要と思う。長谷川義史さんの時にはアンケートも取ったと思うが、その活用方法や反省会が次のイベントに生かせる。職員が認識しない程度の反省会ではなく、問題点を掘り起こして次回に生かせる、きちんとした形の反省会をやってもらいたい。</p> <p>もう1点はボランティアの育成事業だが、参加人数が減っている。もっとPRしたいと言ったが、具体的にどうやっていくのか。今までは広報してもあまり普及していないので、違うやり方を考えるべき。ボランティアはだんだん高齢になり、新しい若い方が増えてほしいと切実に思っているので、ぜひもっとPRしてほしい。</p> <p>スクールアシスタントの講座もやっていると思うが、指定管理も2年目なので、もう少し図々しく、行政とか学校の方に踏み込んで、「ぜひ何名ずつ出してください」というぐらいやらないと、学校現場によっては図書館の温度差がかなりあると思う。</p> <p>「今日協議会があるよ」と話したら、ボランティアの方々から、「2年目だから」とちょっと辛口の意見もいただいた。目の前のことをすごく一生懸命やってくれて、私たちも協力してもらいありがたいが、不満な部分もあるようだ。</p>
関委員長	今2つお話があったが、1番目の反省会というのは、図書館主催の講座か。
六原委員	図書館が主催したもの。よそから講師を呼ぶ講座や、小さい子へのおはなし会も。
館長	<p>反省会はしているが、全員が集まれないままになってしまったものもあり、そのことをスタッフがお答えしたのだと思う。例えばボランティア講座であれば、ボランティア担当たちがその都度反省会をしているし、子どもの催しであればそれに携わったスタッフたちが確認をしている。長谷川義史さんの講演会については、規模が大きく全員参加の形だったために、その後全員が集まる機会がなかなかなく、休館日のミーティングで振り返ったものの、アンケートの内容にまで突っ込んだ話し合いはしなか</p>

	<p>った。その点がご指摘いただくことになってしまったのだと思う。</p> <p>また、担当者ごとに反省をしても、それが全員の共通認識にまでできていないケースも考えられる。担当者が生の声で伝えるのが本当はいいのだが、月2回のミーティングを待つことになり時間がかかってしまうので、まとめを回覧する、連絡ノートで伝えるなど、できるだけ早い方法で情報を伝え、その上で全員居る時に確認して、しっかりやっていきたいと思う。</p>
関委員長	<p>効果的な反省をやってほしい。反省のための反省とか、反省のために時間をかけ過ぎて本番の仕事に影響が出ると、無意味な反省になってしまう。アンケートも上手に取らないと、つくのは簡単だが処理が大変で、処理の仕方によっては本当に無駄になってしまうことがある。</p> <p>また、ボランティアの数が減っていることについて、効果的なPRとか募集方法の工夫が必要だというご意見についてはどうか。</p>
館長	<p>ポスターを貼ったりホームページに予定を出して、後は待っているという形がこれまで多かった。もっとこちらから出かけていって呼びかけるなど、行動を起こさないと、なかなか広がっていかない。</p>
関委員長	<p>市の広報も使っているか。</p>
館長	<p>載せている。</p>
関委員長	<p>ボランティアと簡単には言うが、例えばPTAで広報を作ろうとお母さん方が集まるにも、家でご飯もつくらなければならないし、日を決めるだけでも大変である。理想はわかるが、現実とすごくぶつかる。うっかりすると夜家を空け、子どもの面倒を見ないで学校に集まることになる。子どもを育てるためにやるはずなのに、逆に子どもを損なっていないか。本当におかしなことが現実になっている。昼間図書館で手伝ってほしい。今は大変不景気でみんな働いているのが現実なので、いろいろ工夫してほしい。使えるメディアにはどんどん協力してもらって。</p> <p>スクールアシスタントについては、これまでも何回か話が出た通り、難しい。「図書館側から学校に、もっと強力に」と六原さんは言われたが、学校にも温度差があって、校長先生や教頭先生がすごく理解のある学校は「図書館を手伝いなさい」と言うが、全然関心のない学校だと、「図書館なんかよりこっちを」となる。スクールアシスタントは本来、生徒指導とか子どもの指導が主だと思うが、特に中学校は生徒指導で精いっぱい、図書館にはとても手が回らない学校もあると思う。</p> <p>また、図書館側は指定管理者制度になり、管理者が教育委員会ではなくなったこともあって、学校へのお願いが以前よりもやりづらくなっている。生涯学習課から教育委員会へ通さなければならない。そういう事情の中で苦労されているのだと思うので、市民部長さんもよろしくお願ひしたい。</p>
渡邊委員	<p>私はPTAで実際に子どもを育てている立場から、子どもの数が頭打ちということに、読書離れがあるのかなと感じている。図書館はこれだけいろいろ行事があるので、子どもの月別の利用状況がわかると、例えば「この行事に子どもたちが集まり利用も多かった」というように、行事と連動しているところが見えてくるのではないかと思う。職員の皆さんはわかっていると思うが、それが目に見える形になると、対策も立</p>

	<p>てやすいのではないかと。</p> <p>また、重点方針の一番にある調べ学習の推進について、子どもたちはこういう案内を図書館からもらってきていると思うが、中学生になると親の手元にまでなかなか届かない。親御さんも知っていれば、「図書館はこういうことをやっているから調べておいで」と言うと思う。PTA 連合会は、市内の小中学校のすべての代表 1 名ずつからなる理事会をほぼ毎月開いているが、そういうところでも利用してもらえれば、理事が PTA に報告すると思う。</p>
西潟委員	<p>私も調べ学習の推進についてお聞きする。私は四日町小学校の学区に住んでおり、四日町小に限らないとは思いますが、学校図書館の本は古いものが多い。新しい資料も少ない予算から一生懸命入れてくださっていると思うが、調べ学習をしようにも、子どもたちは学校図書館の資料だけでやっていけるのだろうかと考えてしまう。20 年度は図書館にあまり来られなかったのではわからないが、広報紙「フィンダス」の中でも「こういう新しい資料があるよ」と、調べ学習用の資料の紹介が出たりすると、利用者が増えるのではないかと思う。</p> <p>また、関係あるかどうかかわからないが、一中の場合、学区の小学校が統合されて小中一貫校になる予定。そうなった場合、古い資料はどうする予定なのかとも考えた。</p>
館長	<p>先に渡邊委員さんがおっしゃった月ごとの子どもの利用数だが、毎月統計を出し、行事が多い時期や夏休みなどに子どもの利用がどうだったかを見ている。ただ、特定のおはなし会を行った日に多かったかまでは見られていないかもしれないので、そのあたりをもう少し細かく分析して、どういう取り組みをすれば子どもたちが図書館に集まってくれるか、本にも手を伸ばしてくれるか、考えてみたいと思う。</p> <p>次に、調べ学習に触れていただいたが、特に PTA の理事会についてのご教示はありがたく、ぜひご紹介いただきたい。先ほども述べたが、お知らせを掲示したりホームページに載せて、あとは待っているのでは足りないのでは、そういう機会を教えてくださいながら、PR をしていく場を開拓し、皆さまと交流しながら、「こういう運動がいかに必要なのか」をお話ししていきたい。</p> <p>また、「フィンダス」等での調べ学習の本の紹介については、これまでも夏休みの時期などには掲載していたが、もっと機会を増やすべきだろうと思う。スタッフ自身も現在「図書館を使った調べ学習」の勉強をしていて、その成果を生かし、「どういう本がどの子どもたちに、どのように役立つのか」をよく考えて、それを広報誌でも紹介し、利用してもらえようようにしたいと思う。</p>
生涯学習課長	<p>一貫校の件で、子どもは学校を管轄していないので断定的なお話はできないが、今朝の新聞も今後 4 年から 5 年かけて統合を進めるという内容だったと思う。そのように進捗される中で、重複する図書はどうするのかというのは、必然的に調整されるはずである。どういう形でなされるかはわからないが、学校同士や学校協議会の中で整理されるものと思う。</p>
関委員長	<p>中学生に図書館を使わせるのはなかなか難しい。日曜日にここへ来ても、中学生はほとんどいない。学校の中でも図書館にはなかなか行かない。お昼休みや放課後に、図書館にどのくらい生徒がいるか。放課後はすぐ部活に行ってしまう、図書館にはあまりいない。それではもったいないので、学校では図書館に連れて行って調べ学習を</p>

	<p>させたりしているが、これは先生や教科にもよるので、なかなか難しい。</p> <p>合併による本の処理は、市町村ごとの考え方である。三条市では合併した時、余った本を市民に配ったが、それも一つの方法。中学校の教師をしていた時、学校の合併をやったことがあるが、7つの中学校を2つにした際、教育委員会の指示で本を集めた。すると同じ本がいっぱいあるので、本当に古い本は捨てていい本だけを残し、書棚も限りがあり全部はとも入らないので、余ったものははんこを押し、子どもにあげた。そういう方法もあるが、決まった方法があるわけではないので、教育委員会や市がどうするかである。</p> <p>また、学校には確かに古い本が多い。現在はわからないが、ちょっと前は三条市の教育委員会の予算の中で、学校図書は平均より多いと、教育委員が言っていた。その予算をどのように使って本を新しくするかは、学校での買い方に尽きると思う。同じ三条市の学校でも、回ってみると「この学校はこんな本がある」というところもあれば、「漫画本ばかりが多い」というところもある。だから、自分の地域の学校の図書館を見て、「もっとこういう本があったほうがいいのではないか」「こうしたほうがいいんじゃないか」と思われたら、PTAの方々が、校長先生や教頭先生など学校に対して注文を出していく、というのが大事だと思う。</p>
佐野委員	<p>調べ学習の話が出ていたが、調べたいものがあったとしても学校の図書館には本がない、という現実がある。市立図書館にお願いすれば貸していただけるものもたくさんあると思うが、どのぐらい前にお願いしておけば貸していただけるのか、日数的なものを教えてもらえるか。</p>
村山副責任者	<p>本の種類にもよるが、たくさんある本であれば、3日ぐらいいただければ問題ない。本館で足りない場合は分館から取り寄せるので、その場合は3日から1週間みていただければご用意できる。「図書館連絡票」というものがあるので、FAXでいただければと思う。</p>
関委員長	<p>では、「4月・5月の利用状況」という資料も出されているので、報告願いたい。</p>
館長	<p>資料No.2に基づき、21年度4月以降の利用状況について説明</p>
丸橋委員	<p>別件だが、そろそろ時間が来るがお許しいただきたい。この図書館の郷土史料関係は閉架式が大部分で、郷土史、地域史に関する文献は、1階の閲覧室では2面ぐらいしかない。もう少しなんとか公開できないか。現実的には原本保存との間で非常に難しい問題だと思うので、理想的には、コピーをしたものを順次公開していけばいいと思う。ただ、民間委託になった現在では、財政的になかなか厳しい面があるかと思うので、一つの提案として市当局にご検討いただければありがたい。例えば1階はスペースがもういっぱいなので、スペースがある集会室に鍵のかかるガラスケースの書棚を、毎年計画的に入れていく。そこに、特に私が懸念している、私たち地域の者にとって重要なのは昭和史。例えば昭和38～39年頃の主婦の店まるよしのチラシなどが、今になると非常に重要な史料になっており、そうしたごく身近な昭和30年代、40年代の史料をこれから加えていかなければならない。そのためにも集会室の一部を少しずつ、普段は集会室として使っていていただいて結構だし、担当される職員も手間がかかるわけなので、1週間に1回か2回時間を切って公開する。そうすれば、そう</p>

	<p>負担はかからないのではないかと思います。</p> <p>もう一つ、それを実現するためには、栄・三条・下田の3地区に分けた、一般の方々も利用しやすい文献目録が、どうしても早急に必要。それほど詳しいものでなくてもいいが、例えば2ヵ月に1遍ぐらいずつ、1枚の両面で作る。これであれば職員もそう手間はかからないので、こういうものを発行していけば、少しは皆さんのお役に立てるのかなという気がする。手のつけられるところから、皆さんのご協力をいただきながら、ぜひ実現に近づけてもらえたらというのが要望である。</p>
関委員長	<p>今丸橋委員さんがおっしゃったことは、私も痛感していること。手をつけるとなかなか大変なことになるが、ではどのようにしたらその考えに近づいていけるか、丸橋委員さんも研究いただき、ご意見をいただいて、少しずつ進められればと思う。</p>
丸橋委員	<p>これはお金と手間、人件費が本当にかかる。「ある程度のところ」でやるようにしていかないと。</p>
関委員長	<p>その通り。一般の方々にとって目に見えるところに並んでいる本はいいが、書庫の中に隠れているものもいろいろあるわけなので、あれがいかに利用されるかということに大きな課題がある。</p>
丸橋委員	<p>三条の場合は史料の原本、江戸時代の史料などの出し入れや閲覧が、非常に簡単にできるようになっている。ごまかしてポケットに入れても全然わからない。例えば県内だと糸魚川の資料館では、写真を撮影する場合と閲覧では別々の指示を受ける。あそこは相馬御風さんの資料を含んでいるので。長岡も非常に厳しいし、柏崎もそう。三条が一番ルーズと言ったら失礼だが、やはり資料は、それだけありがたみを付けてもらわなければ。</p>
関委員長	<p>大事な課題として、今後研究していただきたい。</p>
六原委員	<p>ボランティアの人たちから、ぜひ言ってくれと幾つか提案があった。5月9日の佐藤涼子先生の、午後から行った講座「子どもといっしょに絵本をたのしもう」だが、ピンポイントで小さい子どもさんがいる若いお父さん・お母さんに対象が絞ってあったにもかかわらず、集まったのはボランティアの面々だけだった。すごく残念だったし、講師も準備をしてこられたと思うので、ちょっと戸惑っておられたと思った。</p> <p>そのように、外から先生が来てお話をしてくださるような場合は、図書館の職員も率先して聞いていただきたいし、質問などもあらかじめ用意しておいて挙げていただくのとよかった、という意見があった。現場の仕事を皆さん本当にしっかりやっていただき、何かお願いすると本当に一生懸命していただくのはすごく嬉しい。ボランティアの人たちは皆さん喜んでいいるのだが、「この講習は職員たちも聞いたほうがいい」「絶対に受けておくべきだ」といったことを全体的に見渡せる、指令塔のような感覚の人がいるべきだと。もちろん仕事もしなければいけないが、館長の片腕になる司令塔のような人が1人ではなく2人ぐらいいてもいいのかなと思う。アップアップした感じを見せずに、そういった対応をもう少しできる体制をつくっていただきたい。意識の高い職員もたくさんいるから、そういう方のアイデアを掘り起こしてもらって、どンドンいい方向に引っ張っていただけたらと思う。</p>
館長	<p>ご指摘いただいた通り、講習への職員の参加は、今後も考えていく必要があると思</p>

	う。ここにいるメンバーは皆私の指令塔なので、このメンバーとも今後よく相談していきたい。例えば県立図書館の研修等の案内が来た場合は、「今回は誰を出すべきか」と検討しているが、肝心の自分たちが開催している講習等については、勤務の中ではなかなか余裕をつくれなこともあり、実施担当者以外の職員は自主参加に任せてきたところがある。今後、そういう研修体制をもっと育てていきたい。
豊岡委員	図書館の駐車場が小さい。これでは利用者は増えない。なんとかすべきである。
宮島副委員長	「フィンダス」等の広報紙を、図書館の中に置くだけではもったいない。「図書館だより」といった形にして、他の施設にも置いてもらうといいのではないか。
館長	ぜひ検討したい。
関委員長	では、これで終わりにします。